

## 日本の家族

動画リンク: <https://youtu.be/puV43VtW9pQ>

### 日本の家族

今回は「日本の家族」を学びながら日本語を勉強しましょう。

この動画は、前半は少しゆっくりのスピードで、漢字にはふりがながあります。後半は少しだけ速くなり、漢字にふりがなはありません。学習にお役立てください。

#### ■はじめに。

日本の家族について説明をします。

どの国も独自の家族観があると思いますが、日本人の家族観も、かなり独特です。

外国人が日本の家族を知ると、「こんなに家族を大切にするのか」と驚いたり、「こんなに雑に扱うのか」と困惑したりするかもしれません。

しかし、日本人は特に意識をしないで家族とすごしています。こんな家族の姿もあるんだと感じていただければと思います。

#### ■やっぱり親子だな

親子に関するアンケート調査で、興味深い結果があったので紹介します。

親に対して、やっぱり親子だなと感じるところを尋ねたところ、1位は食の好みと同じ、2位は性格が似てきた、でした。

成人している子供の48%が親を頼りにしていました。

親を頼りにしている場面は、1位 精神面、2位 お金、3位 子供(孫)の世話です。

成人している子供は年に2回、親にプレゼントをしています。

母の日にプレゼントしている人は69%、父の日のプレゼントは46%でした。

#### ■夫 あるいは父親について

男性は、結婚すると夫になり、子供ができると、父親やお父さん、パパと呼ばれます。

孫ができると祖父やおじいちゃんになります。

妻は夫を主人と呼ぶことがあります。

主人には統率者という意味もあるので、妻が夫を上存在とみる傾向があることがわかります。

妻が夫を統率者とみなすのは家父長制度の名残と考えられます。

家父長制度は、父親や長男を家族の長とみなす考え方です。

家族の中で父親や長男が 上の存在とみなされるのは、日本では男性が経済的にも社会的にも優位になることが多いからです。

日本には古くから、夫・父親は外で仕事をして収入を得て、妻・母親は家庭で子供を守るべきであるとする傾向があります。

ただし、現代の日本では家父長制度は廃れてきており、父親や長男を上にする考え方は薄れつつあります。

家父長制度と逆の現象が起きることがあります。

父親が家族から軽視されるのです。

「ダメ親父」という言葉があるくらいです。

家庭に関わらず、仕事中心の夫は家族の輪のなかに入れません。

家庭を大事にせず、仕事ばかりしていても、会社をリストラされてしまえば、夫は経済力を失うので、家庭での尊厳を失います。

専業主夫は、仕事に就かず、収入を得ず、家庭のことや家事に専念する夫のことです。この家庭は妻の収入で生計を立てています。

子供がいる家庭では、妻が夫のことを パパやお父さんと呼ぶことがあります。

これは妻が子供目線で自分の配偶者をみているからです。

#### ■妻 あるいは母親について

女性は結婚すると妻になり、子供ができると、母親やお母さん、ママと呼ばれます。

孫ができると祖母やおばあちゃんになります。

夫は妻を呼ぶとき、名前を呼ばずに「おい」とだけ言うことがあります。

夫は照れているのかもしれませんが、いばっている感じがします。

夫婦で歩くとき、妻が夫のうしろを歩くことがあります。

「妻は夫についていくもの」と考える家父長制度の名残でしょう。

専業主婦は、仕事に就かず、収入を得ず、家庭のことや家事に専念する妻のことです。

夫の収入で家計をやりくりします。

一部の専業主婦には、収入を得ていないことに負い目を感じている人もいるかもしれませんが、

専業主婦は、家庭を守っているのだから気にする必要はありません。

妻・母親が家庭の精神的支柱になることがあります。

妻・母親が、自分の夫や子供のメンタルをケアするわけです。

「母は強し」という言葉があります。

これは母親が、家庭や子供を攻撃するものに果敢に立ち向かうことを表現しています。

妻・母親が働いてお金を稼いで家計を支えることがあります。

その場合、夫・父親が家事に集中する専業主夫になることがあります。

子供がいる家庭では、夫が妻のことをママやお母さんと呼ぶことがあります。

夫婦で働くことを共稼ぎといいます。

ところが家事や育児は働く妻だけが担い、働く夫は家で何もしないことがあります。

良くないですね。

#### ■マザコンとファザコン

息子が母親(マザー)に過剰に依存することを、マザコンといい、娘が父親(ファザー)に過剰に依存することを、ファザコンといいます。

マザコン息子はネガティブにみられることがありますが、ファザコン娘はそれほど悪く思われない傾向があります。

不思議な現象です。

マザコン男性は、母親に頻繁に相談して意見を極端に重視して、完璧な存在とみなします。さらに母親に徹底的に尽くします。

マザコン男性が結婚すると、彼は妻より母親を尊重します。

妻と夫の母親が対立すると、夫は母親側につきます。

ファザコン女性は、父親こそ最高の男性と考えます。

父親の価値観をリスペクトしすぎて、ほかの男性を軽視することもあります。

ファザコン女性が結婚すると、彼女は夫より父親のほうが優れていると感じます。

ファザコン妻は夫を軽視するかもしれません。

#### ■パワーカップル

共稼ぎ夫婦のうち、夫も妻も高額収入を得ていたり、両方とも社会的に高い地位にいたりする夫婦をパワーカップルといいます。

入籍していないが同棲している男女や、同性どうしのカップルもパワーカップルと呼ばれることがあります。

パワーカップルは、家父長制度や男性優位社会に否定的な考えを持つ傾向にあります。

働いて収入を得ることに意義を見出します。

パワーカップルは互いに相手のキャリアを尊重して、ビジネスでの成功に向けてサポートし合います。

#### ■家族問題 少子化

日本の家族関係にはいくつか問題がありますが、そのうちの一つが少子化です。つまり夫婦が子供をつくらない現象です。

1年間の出生数は、1950年ごろは200万人を超えていましたが、最近では100万人をはるかに下回ります。

少子化の原因は、晩婚化と未婚化、若者の出産への意識の変化、育児の経済的負担の大きさ、育児の女性の負担の大きさなどがあります。

晩婚化が少子化を招くのは、結婚する年齢が上がると妊娠のチャンスを逃す可能性が高くなるからです。

未婚化が少子化を招くのは、結婚していないと子供を持ちにくいと感じる人が多いからです。

昔は、子供がいる家庭を持って初めて一人前、と考える人が多かったのですが、現代の若者には、子供をリスクやコストと考える人がいます。

子供を育てるには生活費や教育費など多額のお金が必要ですが、そのお金を負担できる経済力がない若者が増えています。

日本にはまだ、育児は母親の仕事という意識が残っているので、女性は出産かキャリアの選択を迫られることがあります。

日本政府は少子化対策を打ち出していますが、成果があがっているとは言い難いでしょう。

#### ■家族問題 高齢化

寿命が延びることは、本来は喜ばしいことなのですが、日本では対策が追いつかないので、高齢化が社会問題になっています。

日本の65歳以上の人口が総人口に占める割合のことを高齢化率といい、日本は3割を占めます。つまり日本人の3割が高齢者です。

高齢化の要因は高齢者の死亡率の低下です。生活環境、食生活、栄養状態が改善され、医療が進歩して、長く生きられるようになりました。

高齢化のもう一つの要因は少子化です。子供や若い人が少なくなったので、相対的に高齢者の割合が増えたわけです。

高齢化が社会問題になるのは医療費が高騰するからです。

日本の国民医療費は年間50兆円に迫る勢いで、GDPの1割ほどを占めます。

#### ■家族問題 晩婚化と未婚化

晩婚化、または未婚化の現象は、少子化と高齢化が原因といわれています。

結婚が遅れる・しない→子供をつくりにくい→高齢化、と進みます。

晩婚・未婚化が進んだ理由には、結婚は不要と考える人が増えた、女性の経済力が増した、わずらわしい、経済的余裕がない、があります。

#### ■家族問題 嫁と姑

「妻」と「夫の実母」の仲が悪くなることを嫁姑問題といいます。

あまりよくない呼び方とされていますが、妻のことを嫁と呼ぶことがあります。嫁にとって夫の母親が姑です。

嫁姑問題では、お互いに相手を嫌ったり、陰口を言い合ったりします。激しくなると、おおっぴらに喧嘩することもあります。

嫁姑問題はいわば、家庭内での権力争いです。

姑は家長である父親の妻であり、息子の親なので、家庭内で主導権を握ろうとします。

一方、嫁は次の家長になる者の妻として、家庭に新しい風を入れようとしています。姑の考えを古いと感じることもあるでしょう。

嫁と姑がもめるのは、掃除の仕方、料理の味付け、子供(嫁の子、姑の孫)の教育方針などが異なるときです。

嫁姑問題の解決の鍵となるのが、夫(または息子)です。夫・息子は中立の立場で、妻と母親の主張を聴き、両者に歩み寄りを促します。

不思議と「妻」と「夫の実父」の間や、「夫」と「妻の親」の間では、嫁姑問題ほど深刻な関係にならないのが一般的です。

#### ■親孝行という考え方

日本の親子関係を象徴する言葉に親孝行があります。子供が親の心に従ってよく仕えること、という意味です。

親孝行は、子供が、自分を大切に育ててくれて、正しい方向に導いてくれた親に、感謝と尊敬の気持ちを持って良いことをすることです。

親孝行の具体的な行動には、親の老後の面倒をみる、海外旅行をプレゼントする、一緒にご飯を食べる、などがあります。

親孝行は日本人の美しい心を具現化したものといえますが、その一方で、親孝行を疑問視する人もいます。

日本では「親孝行をしなければならない」と教えることがありますが、親孝行は強制されるのではなく、自発的であることが理想です。

親孝行を子供の責務とみなしてしまうと、親孝行が子育ての対価になってしまうでしょう。

そのため、自分への親孝行を望まない親もいます。

#### ■核家族

日本の家族の特徴は、核家族が多く見られることです。  
核家族とは、親と子供で構成される家族、または夫婦だけの家族のことです。

核家族とは、1軒の家に、「父母と子供」または「父と子供」「母と子供」「夫婦のみ」で暮らしています。  
小さな家族です。

核家族の「核」は、基礎的な単位という意味です。  
家族は血のつながりや結婚によってつくられるので、核家族は家族の最小単位です。

日本の家族も昔は、1軒の家に親と子供、祖父母、孫などがいた大家族でしたが、次第に家族の人数が減っていきました。

日本に核家族が多い理由は、

- 1) 国土が狭い
- 2) 都会志向が強い
- 3) 高齢者の単身または夫婦の世帯が増えた
- 4) 少子化、です。

国土が狭いと地価が高額になって、家が狭くなるので、家を継ぐ子供だけが実家に残って、兄弟姉妹は自分の家を持つようになります。

都会化が急速に進んだため、都会が発展して地方が衰退しました。  
実家を出る人たちは、条件の良い都会を目指しました。

都会はさらに地価が高く家が狭いので、核家族しか住めません。  
その結果、高齢の親と同居できず、高齢者のみの世帯が増えました。

少子化は意図的に子供をつくらない夫婦が増えたことなどで起きました。  
子供がいない、または少ないので家族が大きくなりません。

#### ■核家族の良いところ

家族は多人数のほうが、家庭ににぎわいが生まれて、良いような気がしませんか？

しかし、核家族にも良いところがあります。

核家族の良いところは、しがらみが少ないことです。

しがらみとは、心理的に拘束されることであり、接触する人が増えるとしがらみも増えます。

大家族は、血のつながった家族以外に義理の家族もいるので、しがらみが増えて、生活のしにくさが増えます。

核家族なら家族の構成員(メンバー)が少ないので、しがらみが少なく生活しやすいと感ぜられるでしょう。

#### ■核家族の欠点

核家族の欠点は、なんといつてもにぎわいが乏しいことです。  
家族の構成員が少ないと、どうしてもイベントが少なくなつてしまいます。

家族の人数が少なくなると、喜びも少なくなります。

例えば、誕生会を開催する回数も核家族は大家族より少なくなります。

核家族には頼れる人が少ないという欠点もあります。

例えば、祖父母がいないと、働く親は、幼い子供を保育園に預けることになつます。

核家族の子供は家庭では、親からしか教育やしつけを受けられません。  
多様性を身につけることが難くなるかもしれません。

「日本の家族」は、いかがでしたか？

今後の動画制作に活かしますので、コメント欄から感想いただくと大変嬉しいです。

それでは、また別の動画でお会いしましょう。



**Japanese-listening-SUSHI**

